

はじめに、広島での大規模な土砂災害をはじめ、全国各地で甚大な被害を発生した「平成二十六年八月豪雨」や、先般の御嶽山の噴火などによって、亡くなられた方々の御冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

本日、ここに、皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、公益社団法人土木学会の創立百周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴学会は、大正三年に設立された我が国の土木工学に関する代表的な学術団体であり、土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上に重要な役割を果たしておられます。また、我が国の工学系学会として初めて倫理規定を制定し、土木技術者の倫理に関する教育・啓発に取り組むなど、土木技術者の人材育成を支援しておられます。

創立以来百年にわたり、土木工学に関する研究発表会、講演会等の開催、研究調査、学会誌、学術図書の刊行、国際会議の開催などを通じ、我が国の近代化と国民生活の向上に多大な貢献をしてこられました。

今日、我が国の土木工学が、その基礎研究並びに技術開発にわたる多くの分野で先端的な研究成果を上げ、国際的にもすばらしい発展を示しておりますことは、貴学会及び学会員の方々のたゆまぬ努力の賜物であります。

近年、東日本大震災で広く認識されるようになった防災や減災への対応、人口減少下における都市の再生、地球環境問題への対応、社会基盤施設の適正な維持更新など土木技術者が取り組むべき課題が多様化、複雑化しており、土木工学の担う役割はますます重要となっております。こうした中で土木工学分野の幅広い人材と知識が集約され、最新の研究成果や技術基準を発表されている貴学会に対しては、各方面から多大の期待が寄せられているところであり、貴学会が果たすべき役割は、誠に大きいものと考えます。

貴学会並びに学会員の皆様におかれましては、このたびの百周年の節目を契機として、より一層、土木工学の発展に貢献されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成二十六年十一月二十一日

文部科学大臣 下村 博文